

# 基礎病態・社会医学演習

ナンバリング M3-S1-B17

責任者・コーディネーター		教育支援システム開発分野 前沢 千早 教授	
担当講座・学科（分野）		教育支援システム開発分野、感染症学・免疫学分野、衛生学公衆衛生学講座、情報伝達医学分野、放射線医学講座、病理診断学講座、人体発生学分野	
担当教員		前沢 千早 教授、村木 靖 教授、丹野 高三 教授、柳川 直樹 教授、平 英一 教授、海部 知則 准教授、鈴木 智大 講師、杉本 亮 講師、勝本 恵一 助教	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 12コマ 24.0時間
			実習 0コマ 0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

医療の実践には、医学領域に関する基盤知識の修得ばかりでなく、個々の患者の病態生理を正確に把握し、適切な治療に結びつける問題解決能力を必要とする。そのためには、生命科学や衛生・環境を含む基礎医学と各種疾病の病因、病態に関する知識を統合する能力が要求される。本演習では、2学年で学んだ基礎医科学の知識と2/3学年前期で学んだ疾病の病因・病態生理、診断に関する基盤知識を統合・整理する能力を演習形式で涵養する。

## ・教育成果（アウトカム）

診断・治療の実践に必要な、基礎医科学（基礎医学・生命科学）と疾病の病因・病態に関する基盤知識を統合して、病態生理を理解し問題を解決した結果を説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 4)

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	演習問題の関連知識を説明できる。
2	正解を導くに至った基礎知識と思考過程を説明できる。

・ 講義場所

東1-C講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはWebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
演習	6/9(火)	3	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】 授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/9(火)	4	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	分子生物学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】 授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/16(火)	1	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	微生物学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 ウイルス、細菌、真菌について2年次の配布資料やシンプル微生物学などの教科書を読んで説明文を作成する。所要時間 53分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容をまとめること。 演習問題を復習すること。所要時間 53分以上</p> <p>【ICT】 授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>

演習	6/16(火)	2	放射線医学講座	鈴木 智大 講師	【特別講義】正常画像について	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/17(水)	3	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 教授	疫学・環境医学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/17(水)	4	病理診断学講座	柳川 直樹 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/19(金)	1	情報伝達医学分野	平 英一 教授	薬理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 ウイルス、細菌、真菌について2年次の配布資料やシンプル微生物学などの教科書を読んで説明文を作成する。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容をまとめること。 演習問題を復習すること。 所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>

演習	6/23(火)	1	教育支援システム開発分野	前沢 千早 教授	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/23(火)	2	感染症学・免疫学分野	海部 知則 准教授	2Mの免疫学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/25(木)	2	人体発生学分野	勝本 恵一 助教	臨床解剖学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
演習	6/25(木)	3	人体発生学分野	勝本 恵一 助教	臨床解剖学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>

演習	6/25(木)	4	病理診断学講座	杉本 亮 講師	病理学総論・器官病理学で履修した内容の演習	1,2	<p>【事前学修】 講義タイトル記載の既履修科目について、復習しておくこと。所要時間 55分以上</p> <p>【事後学修】 webclassに演習問題・正答をアップするので、作問の意図を説明できるようにすること。所要時間 55分以上</p> <p>【ICT】授業中に実施した演習問題の解説をWebClassにアップする</p>
----	---------	---	---------	---------	-----------------------	-----	--

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	カラー図解 これならわかる薬理学 第2版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein著、佐藤俊明訳	メディカルサイエンスインターナショナル	2012
教科書	クエスチョンバンク 医学共用試験 CBT		MediLink store	2026

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験成績（MCQ）100%で評価し、100点満点の68点以上を合格とする。</p> <p>【形成的評価】 演習テストを実施し、終了後に問題と解答についての解説を行い、学生自身の理解度を確認できるようにする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、2	4				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
---

・教育資源

CBT-QB（演習課題の解説が掲載されている）・参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	PC画面投影装置	1	問題演習・解説
講義	ノートパソコン	1	問題演習・解説

実習	クリッカー	130	問題演習
----	-------	-----	------